

臨床研究「がん組織と血清における CD155 の発現・機能解析」についての説明

研究代表：筑波大学大学院 医学医療系生命医科学域 免疫学 教授 渋谷 彰

1. 研究の意義・目的について

「CD155」という分子（ぶんし）は、一部のがん細胞の表面に出ていることが近年に明らかになったもので、私達のからだは「がん」から自分のからだをまもるしくみ、つまり免疫（めんえき）の働きに深く関係していると考えられていますが、詳細はまだ分かっていません。研究を進めるために、より多くのがんについて調べる必要があります。研究の結果が将来、がんの新しい治療の開発に貢献することが期待できます。

また、がんの診断のための検査のひとつに「腫瘍マーカー」検査があります。現在多数の腫瘍マーカーが臨床で用いられ、がんの病態を把握するために用いられています。前述の「CD155」は、がん細胞から血液中にも出ると考えられており、採血でこの CD155 を調べることにより、新しい「腫瘍マーカー」として利用できる可能性があります。

この研究は、がん患者さんのがん組織と血液の「CD155」を調べることにより、「CD155」の機能を明らかにし、将来的にがんの新しい診断・治療開発に貢献することを目的としています。

2. 研究の方法について

2009年5月以降、筑波大学附属病院 呼吸器外科、消化器外科、腎泌尿器外科、乳腺甲状腺内分泌外科へ入院され手術を受け、包括同意書「筑波大学附属病院への試料・情報提供についての同意書」にご同意をいただいている患者様のなかから対象患者様を選択させていただきます。対象患者様からは、手術で摘出した組織について、診療に用いた後の残余試料をご提供いただきます。

担当医を通じて、診療に関する医療情報全般をご提供いただき、本研究結果と合わせて解析に使わせていただきます。

3. 研究による危険性について

本研究は診療に用いた後の残余試料を解析に使用しますので、この研究により危険性が増加することはありません。

4. 研究協力に同意しない場合でも不利益を受けることはありません

皆様が研究協力に同意しない場合でも、なんら不利益を受けることはありません。また研究協力への同意後も、いつでもこれを撤回できます。

5. 個人情報の保護について

研究のデータは主に電子的に処理され、本研究の結果を解析するために使われます。解析のために皆様の医療情報を使うことがあります。個人情報保護のために、名前は記号や番号に置き換えて取り扱われます。

6. 研究成果の公表、開示について

本研究の成果が公表される場合であっても、皆様の医療情報は保全されます。

この研究によって皆様から得られた研究結果などが、科学専門誌などの発表に使用される場合がありますが、皆様の名前は記号や番号に置き換えられますので、個人情報を守られます。

また皆様個人に本研究の解析結果をお伝えすることは原則的にありませんが、もしご協力いただいたご本人様が解析結果の開示をご希望の際は、下記の連絡先にて対応いたします。

7. 研究場所および研究者

研究場所は、筑波大学大学院の免疫学研究室です。当該施設に所属する研究者（教授・准教授・講師・助教・大学院生）の研究者により実施されます。

8. 本研究に関するお問い合わせ、本研究への利用お断りの連絡先

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1 TEL029-853-3281

筑波大学 医学医療系 免疫学研究室 渋谷彰、井口研子